

思い出

karinomaki

統合失調症

私は統合失調症。最も重い精神病です。そんな私にロマンスがありました。その思い出を美しく書こうと思います。

建設会社の副社長

私は義理の父に、Kさんという立派な人を紹介されました。その人は、建設会社の取締役副社長でした。

私はゴルフ場でその人に会いましたが、口をきかない人に見え、少々話すのがおっくうでした。

しかし、その人は私が真剣にゴルフをする姿を見て、私に好意を持ってくれました。

茶店で二人で話したとき、会話は面白いようにはずみ、しかしまだ私には恋愛感情は芽生えていませんでした。

お酒を飲んだKさん

私が、Kさんにまいてしまったのは、お酒を飲んだKさんを見たときでした。酔っぱらって管をまく亡き父に、Kさんはそっくりでした。「Kさん、パパに似てる・・・。」と私は言いました。彼は、ぼく、マキさんのお父さんに守られてる気がするんですよ・・・と言いました。父は既に他界していました。

Kさん、好きです。

Kさんには、私の方から打ち明けました。「Kさん、好きです。」Kさんは笑ってごまかしましたが、目が輝いていました。それ以来、私とKさんは、心で会話するようになりました。私が何を考えているのかKさんは読むし、私は・・・時々だまされながらも、愛されていることが心でわかりました。Kさんは、「悪い男」だったのです。「マキさん、一生勝負しましょうね。」とKさんは言いました。「いつかあなたをズタズタに傷つけますよ。」と私がおどしたら、彼は言いました。「いいですよ。受けて立ちます」

Kさんは三つ年下なのに、私は死んだパパのように懐かしく思慕がわきあがるのをおさえられません。

「どうしてわたしばかりこんなに好きにならなければならないのですか！！」と泣く私に、彼は「ガッツ！！」と言いました。

別れ

そんな私たちに、突然別れが来ました。その人がいないととても生きていけない、弱い女性が現れてしまったのです。私達は、もう別れて2年になります。でも、思い出はキラキラしていて、私は幸せに一人で生きています。私の病気をこわがらなかったその人に感謝をこめて・・・この文章を終わります。